

政策立案コンテスト 政策提言書

CARP 名
八王子 CARP
政策タイトル
使用済み教科書の活用による若者教育の支援
理想の国家・社会像
<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が創造性を発揮し、志高く、のびのび育つ国家</li> <li>・若者を正しく責任をもって教育し、若者の活気があふれ、国民が希望に思える国家</li> </ul>
解決したい問題と、その根本的な原因
<p>大学入学直後において、購入する<b>教科書代が予想外に大きな出費</b>となるため、<b>貧困層を中心に、教育環境が阻害</b>されている。また、大学教授もそれを配慮し、教科書購入することを学生に強く促すことができず、教科書を使わない授業設計をしている場合がある。</p> <p>しかし、<b>経済的事情を理由に大学生の教育環境が整わないこと</b>、あるいは、教授があえて教科書を用いない授業設計をすることは望ましくない。</p>
政策案（比較案があれば併記）
<p><b>公的に教科書を入手可能とするような仕組みづくりを促す</b>ことによって、だれもが不安に思うことなく教科書を入手することを支援する仕組みづくりのための政策を立案する。具体的には、卒業生が保有する<b>使用済み(処分前)の教科書を再利用して、新入生に安価に譲り渡す</b>ための仕組みを考案する。</p> <div style="text-align: center;"> <p>卒業生から不要になった教科書を買取 → 図書館(大学)が教科書を管理・保管 → 新入生が必要な教科書を安く購入</p> </div> <p>これにより、親の経済収入に関わらず教科書を容易に入手することが可能となる。また、この仕組みを実現するにおいては、教科書を卒業生から買い取るための<b>初期投資が必要</b>であるが、販売価格を買取価格より高く設定することにより、初期投資を回収することができる。したがって、<u>実現コストは実質的にはゼロ</u>となる。</p> <p>今までも、古本屋やネットなどで安く入手する方法もあった。しかしそれはあくまで、民間の活動レベルにとどまっており、<b>貧困層全員が安価に教科書を入手できることを保証するものではない</b>。そこで、本立案のように公的に教科書の入手に関する支援を行うことにより、<b>貧困層の全員が安価に教科書を入手</b></p>

できるようになると考えられるため、**貧困大学生の教育環境が改善され**、大学教授は教科書の購入を学生に気兼ねなく促すことが可能となり、**教科書ベースのより質の高い授業を展開できるようになると考えられる。**

参考：入学直後の出費に対する既存の経済対策

① **入学時特別増額(日本学生支援機構)**

- ・対象：入学月を始期として奨学金の貸与を受ける者
- ・概要：入学月の基本月額に希望の金額(10～50万円)を増額して**貸与**を受けることができる  
振り込み日：**4月21日**(平成29年度)  
→**貸与型の奨学金は実質、借金である(貧困の原因にもなり得る)**  
→**振り込みが遅いため、入学直後の経済対策として不十分**

② **教育ローン(日本政策金融公庫：H.20～)**

- ・概要：学費のための教育ローン

教育ローン	
利息の発生時期	借りた翌日から発生
実際の利率	2.05% (2016年3月)

- 借りた翌日から利子が発生するため、結果的に大きな負担になる場合もある**
- 貧困層の全員が借りられるとは限らない**

※ページ数に制限はございません。各スペースは拡張して書いていただいて大丈夫です。図なども利用して分かりやすくしていただいて大丈夫です。